

第 32 回 奈良県河川整備委員会 紀の川（吉野川） 議事概要

1 日 時：平成 18 年 2 月 8 日

2 場 所：大淀町文化会館（2F 視聴覚室）

3 出席者

委員 10 名：朝廣佳子、池淵周一、岩本廣美、岡田伸子、御勢久右衛門、中川一、中島祐子、
前迫ゆり、三野徹、和田萃（五十音順、敬称略）

事務局 4 名：奈良県 板屋河川課長 ほか

4 議事要旨

(1) 奈良県河川整備委員会について

(2) 紀の川流域の概要について

(3) 今後の進め方について

(4) 現地視察会について

5 議事内容（主な意見）

5. 1 奈良県河川整備委員会について

・奈良県の川はすべて一級河川となっているが、そうなのか。

→奈良県の川はすべて一級水系の河川、と修正する。

・紀の川水系の中の奈良県が管理する区間を対象に、防災面はもとより利水、あるいは歴史、文化、大きく環境というものを視野に入れた、吉野川らしい川づくりを目指す計画案づくりを、この河川整備委員会は学識経験者の角度からいろいろ審議していくのが役割であると考えている。

5. 2 紀の川流域の概要について

・高見川とか、本川以外の支川は審議の対象ではないのか。

→紀の川流域内の奈良県管理区間のすべての河川が（直轄部分を除く）審議の対象となる。

・和歌山県の橋本に入れば「紀の川」だ。しかし、奈良県人は紀の川とは言わない。「紀の川」では関心が非常に薄くなると思う。できれば「吉野川」という形で考えていけば、地元の方も「自分のところの川だ」という意識がある。

→これから吉野川と言う。

・魚道の問題に関して、去年、和歌山県で海から上ってくる 4 万匹の鮎の背びれを切って、どこまで行ったかを調べると、みんな高見まで行っている。

・紀の川水系は一本ではなくて十津川水系から水が入ってくる。そして大和川水系へ分水している。奈良県民の 90 何%が飲んでいる水は吉野川から来ている。そういったことを考えていかなければならない。

・下市から大和平野へ分水するので、下市から五條までの間は水が少ない。最低のときは $5 \text{ m}^3/\text{s}$

ほどしか流れていないので、小学校1年生の子でも10cmほどの長靴をはいたら川を渡れる。こういうことも考えに入れてもらってほしい。

- ・流域内の関連市町村が奈良県内では11市町村あるが、この中で天川村が入っているが、十津川水系ではないのか。そのほかに御所市とか、高取町、宇陀市などは、木津川水系か大和川水系ではないか。

→高取町とか御所市とか天川村等は全部入っているのではなく、その一部が紀の川流域に入っている。

- ・吉野川の水質については、有機汚濁の指標としてBODを用いるのは一般的だが、琵琶湖も含めBODは減少するが、有機物はCODが非常に増えてきている。いま、河川局では、かなりの難分解性有機物が問題になっている。この一つの理由は多分、森林の利用が変わってきて、森林から難分解性有機物の供給があるのではないかとされている。この紀の川も、この課題としてCODもあわせてデータを集めてほしい。

- ・動植物も含め生き物に関するいろんな情報が今回はなかった。吉野川流域は自然林もまだまだいいものが残されており、やはり林業との関係が非常に深く、これだけ造林されているにもかかわらず、水質的にも維持されているのはなぜかという林業との関係とか自然林との関係もかなりかわってくると思うので、陸上の情報も盛り込んでいただきたい。

→今回は吉野川の現状をダイジェスト的に紹介しており、今後、現在あるデータをできるだけ紹介しながら、検討していただきたい。

5. 3 現地視察会及び今後の進め方について

- ・大滝ダム上流にはダムにより水没してしまう丹生川上神社上社がある。ここは橿原の研究所で発掘調査をして、宮の平遺跡という縄文時代の大遺跡であることがわかった。それも奈良県内では山添村の遺跡と同じぐらい古い縄文早期から晩期の大遺跡だ。また、対岸にも大きな岩があって、どうも縄文時代からの信仰の対象になっている盤座がある。ぜひ、その場所を見ていただきたい。全国の式内社で水没するのは初めてのケースだ。

- ・大和川なら夏でも冬でもあまり変わらないが、吉野川というのは夏になったら子供がたくさん泳ぎに来ているし、キャンプもやっている。これを見て環境をどうするかということも考えていけばいいと思う。季節を変えて夏に1回と、いまの冬に1回というようにすればどうか。

- ・例えば、森と水の源流館でかっぱを着て雨水を体験するとなれば、なおさら時間がかかる。この行程ではせっかく行きながら何をしに行ったのかなあという感じがすると思う。

- ・夏場にも行くというのであれば、上市河川敷はカットしてもよい。

- ・視察コースに五條の大川橋の河川敷があがっているが、ここは川沿いに新町通りがあって、全国的にも町並みとして非常によく残っているところだ。なおかつ、そこの山田旅館は江戸時代から続いているところで、吉野川と一体化した集落が残っている。ここもぜひ入れていただきたい。

また、生態という観点では上市のすぐ上流の妹山は平安初めから人の手が入っていない国の天然記念物なので、コースに入れてほしい。

→ 28日は、コースとポイントの数等について、少し余裕のある企画に変更していただくとして、

事務局に一任する。

・平成8年度に吉野川についての河川整備計画が策定されている内容等を、委員が見直しも含めてどう考えるのか。そういう課題も含めて、本日提案の進め方のフローをベースにしながら次回の委員会の前半で議論したい。

以上